

図書館移転の経費は?

図書館は市役所に次いで市民に多く利用され、過去のアンケートでも「なくなると困る施設」の上位にランキングしています。

Q「図書館移転の経費に都市計画税は充てられないのか?」

A「これから都市計画を作り申請しては、認められるとしても数年かかる。本館の老朽化を考えると間に合わない」

財政的には、地域館を整理してしまえば話は簡単なのでしょうが、市民の希望を抜きにして市政を考えることはできないと思います。



「市民参加」はどこに?

Q「行動プログラムを決定した過程について知ることはできるか」

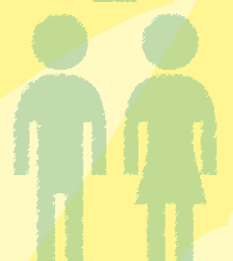
A「(個々の発言内容を記した)議事録は作っていない」

つまり、3年前の公共施設の見直し方針を作るにあたって、どんな話し合いが行われたかは市民も議員も知ることができないということです。

結論までのプロセスがわからないという点に、私は大きなもどかしさを覚えました。また、今回のやり取りで市長は「行政と議会で決定する」ということははっきり言っています。確かに議会は市民の代表で構成される場ですが、それでは市民参画をうたった自治基本条例は、いったい何のためにあるのでしょうか。

市長は事あるごとに「これからの市政には市民力が必要」「市民にも責任を持ってもらねばならない」と言っています。それならば情報公開を積極的に進め、市民と共に市政を作り上げるメソッドを構築していかなければならないのではないのでしょうか。

4



◆市民とともに作る市政を

「まちづくりに正解はない。それは、自分たちで作っていくもの」。私はそのように考えています。

もちろん全ての市民が市政に関わることは不可能ですし、異なる意見をすり合わせて合意に至るのは決してたやすいことではないでしょう。それでも、まちの主役は市民であり、自分たちの税金を何にどう使うかという問題について、もっと市民が積極的に関われるような環境を整えるべきだと思うのです。

公共施設の見直しはこれからが本番。私は、市民の皆さんと一緒に作っていく市政をめざします。

